



ゲームに使う避難者カード



今年も始まりました！ 子どもおとな会議 6月15日（日）

令和4年度から始まった「子どもおとな会議」も4年目を迎えました。昨年度までの会議員は55人。今年度は新たに小学生4人、中学生4人、看護大生2人、大人2人の計12人を加えてのスタートです。昨年度までの「活動班」「継続班」に「会議班」が加わりました。子どもの目線を加えた「自由ヶ丘のまちづくり」楽しみですね。



【会議班】

☆今年度新たな取り組みとして生まれたのが会議班。コミュニティ運営協議会の事業や取り組みを子どもの目線を加えながら検討していきます。ここから議員さんが生まれるかも!?ご期待ください。



【継続班】

☆2年目を迎えた継続班。昨年行った季節のイベント活動の充実や古着のアップサイクル活動（新しいものに生まれ変わらせること）を目指します。協力をお願いすることもあると思いますので、みなさんよろしくお願いします。



【活動班】

☆4年目に突入の活動班。今年も「The 子どもおとな食堂」の開店と花いっぱい活動で、自由ヶ丘のまちが元気に楽しくなるように活動…いえ!!さらにパワーアップした活動をしていきます。ご注目ください!



さあ、みんなで考えよう!

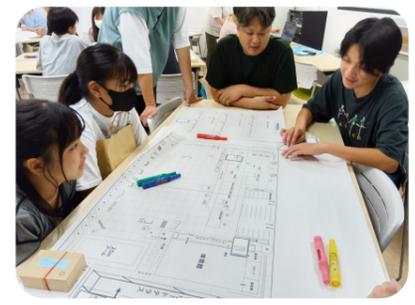
ジェンダー平等推進会<しゃべり場> 6月22日（日）  
青少年育成部会<中高生ふれあい広場>コラボ企画

避難所運営ゲーム（HUG）をやってみよう!

※HUG（ハグ）…避難所で起こるさまざまなできごとに対応していくか学びながら、話し合いを通じて、避難所運営の課題や改善点を見つけ、防災意識を高めることができます。



コラボ企画となった今回は、防災士会にお手伝いをしてもらい、中学生と大人と一緒に<HUG>を体験しました。甚大な災害が起きた時に開設される避難所ですが、そこには次から次へと人が押し寄せてきます。限られたスペース、緊迫した状況で避難所を運営しなくてはなりません。中学生が避難所運営なんてできっこない?そんなことはありません。実際に災害が起こった時、動ける人が避難所を運営することになります。知っていて損はありません!災害が起こった状況を想定しながら、さあ、みんなで考えよう!



「腹が減っては戦はできぬ」ということで、HUGの前にみんなでカレーを作って食べました。みんなで食べると…楽しさいっぱい、おなかもいっぱい!

いろいろな人の避難の仕方を考えて、避難する人にもいろいろな都合があるので、考えるのが難しかった。これから災害があった時に役立つと思いました。(中学生)

書かれた条件などを考えていると、同じ部屋にたくさんの人が入ってしまっていたりした。(中学生)

避難所に、旅行者など、考えつかないような人が来ることもあることが分かった。(中学生)

イベントカード(報道対応など)や避難者の対応が追いつかない状況だった。でも、中学生が直感で部屋を割り当てているのが頼もしかった。(大人)

参加者の声



最初は人をさばけても、次から次に人がやってくると行き詰ってしまう。ある程度予測できることをもとに基本形があると運営しやすくなると思う。(大人)

今年も大好評! コミセン主催スマホ教室 6月24日（火）

昨年までは、セミナー形式でしたが、今年は1人30分のマンツーマン方式に変更! 「私のわからない」を直接聞くことができます。参加者からは「その場では理解したつもりでも、帰宅してスマホをさわると忘れてる」「自分たちの年齢になると使いこなすには限界がある」「講師を前にすると、聞きたいことを忘れてしまった」などの声がありました。今や、スマホがないと不便を感じる時代。シニアのみなさんもそのことをよく理解されていて、毎回とても好評です。今後も継続していきますので「スマホの困った」がある方はぜひご参加してみてください。次回は9月30日（火）に開催予定です。それではここでAIが一句



着信に 慌てて探す 家の電話

シリーズ企画 コミュニティスクール...そもそもの話 NO.2

そもそも、コミュニティスクールはなぜ必要なのでしょうか?それは、学校・家庭・地域のそれぞれに複雑な課題が生まれているからです。それぞれの課題を解決するために「地域とともにある学校」と「子どもの力を育む家庭」と「子どもを中心とした地域」がパートナーとして協力し合い、総がかりでの教育が必要なのです。そこで大事になってくるのが、「どんな子どもになって欲しいのか? (教育目標)」「そのためにはどんなカリキュラムが必要なのか (教育内容)」を学校は家庭や地域に分かりやすく伝え、それを受けた地域のみなさんは、子どもたちがふるさとに愛着を持ってくれるように関わりながら見守っていくことが大切です。まずは、学園運営に関わる人たち(学園運営協議会)の中で教育内容を共有し、しっかり話し合います。昨年は、この話し合いの中で児童生徒の声を聴く機会を設けました。実際の子どもの声を聴くことで、教育には「学校が教える」だけでは足りない学びがあることに気付きます。さあ、ここで地域のみなさんの出番です!学校の登下校中の子どもたち、公園で遊んでいる子どもたちにほんの少し目を向けてみてください。学校の日学校へ行ってみませんか?「学校の困った」や「子どもたちのやりたい」などの情報も発信しています!そんな学校からの情報を目にした時、耳にした時、地域のみなさんの力を貸してほしいのです。

次回は、学校・家庭・地域が手を取り合って連携・協働するための大切な「地域学校協働活動」について説明し、今、学校が力を貸してほしいと思っていることや私たち地域住民ができることって何があるのかをお話したいと思います。